炎症性腸疾患外科プログラム

【研修目標、到達目標】

炎症性腸疾患（以下ＩＢＤ）患者の術前評価、術式の選択、基本的な手術手技、術後管理について十分な知識と技術を習得することが最終的な到達目標である。ただし、３-５年目では専門的なＩＢＤ領域だけでなく、上部・下部消化管外科を中心とした他の外科と連携をはかり幅広く消化器外科の知識を習得することを目的としている。また、外科学会専門医収得(修練登録開始より４年間の期間が必要)に必要な手術経験数をできるだけ早く達成できるように考慮している。

【レジデントA(卒後３年目)カリキュラム】

外科学会専門医の収得に必要な、肝胆膵外科、小児外科、心臓血管外科領域、呼吸器外科領域、乳腺外科領域の症例数を持っていないレジデントについては３ヶ月間、その領域にローテーションし、残りの期間をＩＢＤ領域の研修期間とする。
また、３年目で少なくとも２回の学会発表をしていただく。

【レジデントA（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、麻酔科・疼痛制御科、救命救急センターのいずれかで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【レジデントB，C(卒後４～５年目）カリキュラム】

卒後４，５年目のレジデントB，Cは関連病院への出張としている。
夜間大学院を希望する場合には個別に相談し、修練計画を立てることとする。

【カンファレンス、症例検討会等】

カンファレンスは毎週月曜日の手術終了後に行い、その後に内科とのＩＢＤ合同カンファレンスを行っている。

【その他研修要件、関係学会の内容等】

専門医・指導医制度が導入されている外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会、消化器病学会、消化器内視鏡学会等の専門医を最短期間で収得できるように、必要症例数をできるだけ早く達成できるように考慮している。臨床を行いながら、学位収得ができるように、夜間大学院への入学をすすめるが、数年間研究を行いたい者については、研修期間終了後，基礎系教室または院外の研究機関等へ紹介する。

【関連病院】（下線病院は卒後３年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

兵庫医科大学ささやま医療センター、西脇市民病院、神戸百年記念病院、明和病院、関西労災病院、近畿中央病院、市立堺病院等

【指導医】

教　授：池内　浩基　（日本外科学会　専門医・指導医）
（日本消化器外科学会　専門医・指導医）
（日本大腸肛門病学会　専門医・指導医）

准教授　：内野　基　（日本外科学会　専門医・指導医）
（日本消化器外科学会　専門医・指導医）
（日本大腸肛門病学会　専門医・指導医）
助　教：坂東　俊宏

【研修統括者】

助　教：坂東　俊宏

【問い合わせ先】

TEL: 0798-45-6372　FAX: 0798-45-6373　E-mail: jichuan@hyo-med.ac.jp　（秘書：吉川）